

こんにちは 山田耕平 です

2013.7.3 No.121

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11
TEL 090-9973-0941
ホームページ
<http://yamadakohei.jp>



荻窪消防団第三分団で視察研修へ 被災地・福島県南相馬市を訪問

六月三十日(日) 荻窪消防団第三分団で視察研修を実施。私も団員の一人として参加しました。

災害時相互援助協定を 締結する福島県南相馬市へ

研修先は、福島県南相馬市(杉並区と災害時相互援助協定を締結している地域)で、東日本大震災の津波による被害と原発事故の放射能汚染の被害を受けている地域です。

直接、現地の状況を見ることにより、「被災地域で何が起こったのか?」「復興の行方はどうなっているのか?」などを考える機会とするための視察です。

また、現地の消防団とも交流し、災害発生時に果たした役割などを学ぶ機会ともなります。



津波により倒された電柱



津波と放射能被害を受け放棄された家屋が並ぶ。
津波被害を受けた家屋の跡地には広大な更地が広がる。

深刻な放射能汚染被害… 飯舘村通過中、高線量を計測

南相馬市に入るため、途中で飯舘村を通過しましたが、持参した放射線量測定機の数値が一気に引き上がり、毎時1.0μsVを超えました(バス車内)。

時速60キロ程度で移動するバス車内でも高い放射線量を計測し、放射能被害の深刻な実態を痛感しました。なお、飯舘村の放射線量も徐々に低下しているようですが、依然として、深刻な状況です。



毎時1.03μsVを計測

津波被害の爪痕が生々しく残る…

現地の方の案内を受けて、放射能被害を受けている南相馬市南端の小高区へ入りました(福島原発から二〇キロ圏内)。

以前、杉並区議会で南相馬市を訪問した際は(週刊ニュース26号に詳細)、警戒区域に設定されていたため、立ち入ることは出来ませんでした。

現在は、住民の出入りは出来るようになっていますが、今なお、宿泊には制限がある地域のため、復興が進まず、津波被害の爪痕が生々しく残っていました。特に、沿岸部は海拔0m以下の場所も多く、水浸しの広大な更地が広がっている状況です。(裏面に続く)

災害に強い街づくりを “いざ” という時の備えを常日頃から

救援にあたった消防団員も命を落とした

現地の消防団の方から、当時の状況について説明を受けました。道すがら、津波被害を受けた消防車両があちこちにありました。救援にあたった多くの消防団員が命を落としたそうです。

当時、消防団員は行方不明者の捜索も行ない、遺体発見現場に立ち会うことも多く「子どもの遺体を見ることは本当に辛かった」と被災当時の悲惨な実態が語られました。

自助と共助を支える「公助」の役割が重要

今回の視察研修により、大規模な災害発生を想定した街づくりの必要性を痛感しました。また、災害発生時に真っ先に救援にあたる消防団員や防災市民組織の役割も重要になっています。

行政が「公助」としての役割を果たし、各組織への支援体制を拡充することと、緊急時を想定した訓練を強化することが必要です。

消防団員の増員も急務の課題となっています。

荻窪消防団も団員募集中です。興味のある方は、お気軽に声をおかけください。

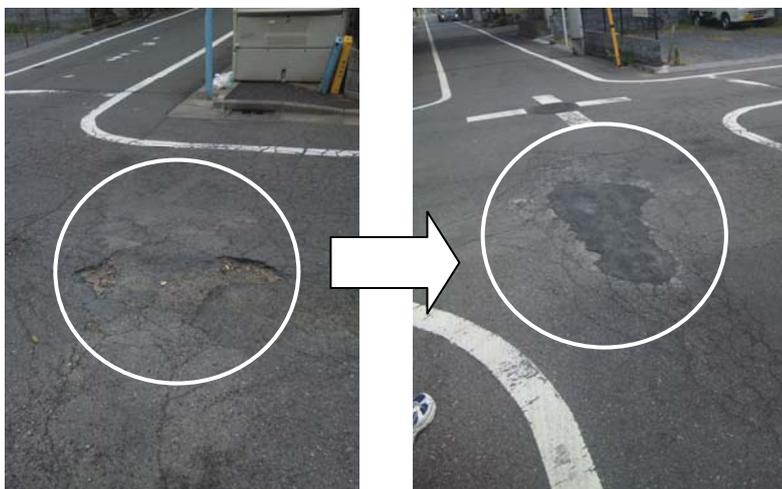


津波被害を受けた消防車両（右手前）最後まで、逃げ遅れた高齢者などの救援にあたった消防団員が大勢いた。

路面の荒れ、穴ぼこ等 お気軽にご相談を！

この間、取り組んでいる区民アンケートでは、道路の荒れや穴ぼこ等の補修についてのご相談が寄せられています。身の回りの道路で、補修が必要な場所がありましたら、お気軽にご連絡ください。

路面の状態、周辺の住所をお伝えください。
山田耕平携帯電話 090-9973-0941



周囲40cm程度、深さ5cm程度の穴ぼこが開いている路面

簡易的な舗装により、穴ぼこが塞がる

育メン日誌

必死に水族館へ！

黄金週間の休み以降、第二回定例会が始まり、そのまま都議会議員選挙に突入したため、二カ月近く休んでいません。私の体力は全く問題無いのですが、子どもと休日を過ごすことが出来ないため、可哀想な思いをさせています。そのため、意を決して電撃的に水族館に行ってきました。かなり慌ただしいスケジュールでしたが、息子も大喜び。連れて行って良かった！仕事柄、休日を満足に取れないため、家族には負担をかけます。しかし、“家族を大切にすることも、多くの区民の願いを理解する第一歩” だとも思いますので、家族サービスも精一杯頑張りたいと思います。



似た写真。実は、左が今回、右は一年前。大きくなりました。